



グループ討議 2 議事要旨(概要)

～全体とりまとめ～

1. 関西の個性

(1) モザイク状の地域

関東は同心円状、近畿は多様性のあるモザイク状の歴史・文化
金畿としての持ち味を活かした地域づくりをしていく必要がある
特徴のある地域をつなぐのは流域
それぞれの地域が自立して連携
モザイク状都市という面白い地域

(2) 通ネットワークが大切

関西らしさ、近所づきあい、地域地域のつながり
関東では JR と地下鉄がすべてつながっている
関西でも交通ネットワークのつながりが必要
大阪の市営地下鉄を核とした鉄道間の共通性
一つの都市圏の中に生活している中で対立的な表現はよくない
鉄道ネットワークを生活の支えにしてきたもの
こういネットワークをサスティナブルなものにしていくことが大切
県庁所在地と他の都市と一時間程度で結びつく

(3) 都市と地方の近接性の活用

都市の人が地方に、地方の人が都市に、交流するモデル
都市と地方が就業としてつながる
淀川水系、鉄道ネットワーク、高速ネットワークの活用
都市圏としての暮らしと田舎としての暮らしをどうやって高めていくか
いろいろなところに行けるという暮らしやすさ
どこも人口が減っていく 集約化が必要
公共施設を計画的にコンパクトにしていく必要がある
近畿では国土保全のために、都心も地方も住むことができる
全国では、地方どこでも住むということはいできない
棚田の景観や地方の文化などは、残していく必要がある
1時間圏(生活圏)で必要な機能は? 緊急医療は必要
近畿は、高度国土利用地域にする

人を誘導するのは難しい、多様な選択肢を設けるのが重要
住民サービスをどこまで広げるかがポイント

(3) 生活圏の中の職場

三世代近居の促進。家が広い、同居率が高い(福井) 近居スタイルへ。
自転車で行ける距離、隣町。
働くということと、住むということが両立
生活圏の中に職場があることが大切
滋賀県は人口が増加構造上琵琶湖があるなかで、中核市が存在
適度に分散していくことが大切
バランスよく配置されることが大切
東大阪、尼崎といった中小企業の集積地
最低限の働く場が必要
働きやすいまちとの両立が必要
外国人の方も含めて考える
これまでは製造業を排除するようなかたち推移
神戸では再度魅力をえるためにデザインを切り口に考えている

(4) 地方での暮らし

一番便利なところに人が集まってくるような仕組み
便利だけでなく心の潤いが大事(緑、水、文化など)
地方の課題は、生活に文化を生かし、産業につなげる
団塊の世代が退職した後の暮らし方がテーマ
農業関係でいくと、地域の農村部に入り、担い手になる
60歳で退職しても10年は地域の担い手にはなれる
リタイアした後、農村部に暮らしたいというニーズはある
父親世代は農村に行きたいが、奥さんはそうでもない
アンケートでは40~50代男性の田舎暮らしニーズが高い
堺市では、田舎暮らしのニーズはあまりない
泉北NTには市民農園などがあり、移り住むニーズは低い
西宮では海も山も近く、通勤に便利なので暮らしやすい
移住してまで、田舎に住みたい人は少ないのでは
医療など住民サービスの問題がある
二地域居住は現実的なのか
地方の活性化の中で、都市との交流はキーになる
若いときは徳島で、働く世代で大阪で、その後徳島というパターンはある

地方にずっと住んでいる人もいるが、その人は選択してそうしてる
仕事で都会に出ると、雇用の関係で帰りたくても帰れない人がいる
ライフプランの中で、居住地の選択が可能になればいい
生活の中で、最も問題になるのは医療
堺市でも、夜間や救急医療はなり手がいない
国土計画は10~15年のスパンとすると団塊世代は高齢化
その時、田舎に帰る人は帰れるなど多様な選択肢が必要
多様な選択肢があるとしても大きな流れはつかむ必要がある
近畿の人口はどうなるのか。減少するという調査もある
大阪から京都や兵庫の地方に移住することも考えられる
京都では美山や綾部、福知山などに移住することも考えられる
団塊世代がリタイアしても、その世代を引き留めるべきか
60代では地方への経済効果は高くなる
60代であれば、近畿にとどめ、東京からも引き寄せる
年金制度の関係で、65歳までは移住しづらい
完全な居住か、週末だけの居住かでも変わる
団塊ジュニアのいる地域にいたいというニーズもある
舎暮らしは女性が大変なのでニーズが低い
女性が困らない田舎暮らしがキーワード
友達や遊び場が田舎にないことも要因ではないか
過疎地域は面積ベースで37%ある
過疎地域に田舎への移住者を政策的に誘導できないか
滋賀県は過疎地域少ない
本全国のマザーランドで全国から移住者を呼び込む
国土保全、環境保全のためにも重要
住してもらうためには、医療や女性の気持ちが必要
地方は都会からも近く、他の田舎に比べ便利
例えば美山町は、京都の都心にも近い
都心に遠い過疎地域は、それでも良いという人に住んでもらう
アクセスは鉄道と道路
高齢になると、車よりも鉄道の方が便利
田舎でもコミュニティバスを走らせている
コミュニティバスのコストパフォーマンスは悪い
青森では、できるだけ都市に住んでもらうよう誘導している
近畿は、団塊世代も含め、人に来てもらう地域にする
都市の便利さと、田舎の良さを体験できる地域を目指す

吉野の山奥でも2時間あれば都心に行ける
近畿は、様々なニーズに応えることができる地域
地域のライフスタイル その魅力を高める
歴史のある地域を活かした暮らし方を創る
里山、山里を活かす 地球レベルでの環境保全に結びつける
二地域居住はリアリティに思えない 打ち出し方が大切
地域の視点に立った検討が必要
交流人口に視点 どうやって人に来てもらえるか
地方に住むということにはなかなかならない
人が住まなくなった所の保全をどうするのか
国土をまもるという機能を考えていく必要がある
作業をする人が日常的な活動として必要

(5) 近郊緑地保全の取り組み

大阪市は自然環境がない
密集市街地、ヒートアイランド等の問題
近郊緑地保全は広域的に取り組んでいかなければならない
この三十年間の中で保全の度合いが薄れてきている
人のすまなくなった地域の再生を考えていく必要がある

(6) 近な自然

都市ま近くに身近な自然が多く残っている
これらをいろいろな形で活用していくことが大切
自然を大切にすることが大切
ウォーターフロントは地域資源として考え、大切にする必要あり
水環境を重視し、市内全域
市民に環境意識が高く、環境施策に取り組んでいる

(7) 地球温暖化問題

バイオマスで近畿が何か打ち出せないか
食品系廃棄物のリサイクルは考えられる
間伐材の利用はどうか、近畿は人工林が多い
木質バイオエタノールで何かできるかもしれない
近畿は、民有林も多い
杉林を放っておくと、森が荒れてしまう
戦後いっせいに杉の植林をしたが、予想より売れなかった
森林はCO₂の吸収源としての役割を持っている

近畿では CO2 の排出と吸収の収支が合うのではないが
「地球に迷惑をかけない近畿 (サステナブル近畿) 」というのは打ち出せる
森林を守る公的支援の理由になる
CO2 は民生と運輸で増えている。全国も近畿も同様
産業はそれほど増えていない
マイカーを減らして、公共交通機関を増やすのは環境にいい
公共交通機関の整備をしているのは近畿くらい
高速道路も一般道路に比べて環境にいい
エコドライブについて、近畿は熱心に取り組んでいる
アイドリングストップや、ワッペンによる意識啓発など
渋滞による CO2 量を調査し、道路整備による削減効果は調査している

(8) 都市の緑化

近畿は公園の整備が少ない
屋上緑化や壁面緑化の推進も考えられる
藩屋敷が少ないことより、昔から緑が少ない
近畿は、堀に特徴がある
高速道路の整備との兼ね合いになる
今後、空き地は増えてくるだろう
大阪城や大川にはあるが、本町など真ん中に緑がない
緑が少ないことは弱みだが、克服する必要がある
公共施設に屋上・壁面緑化をすすめるべき
近畿には緑化の技術を持った企業が多い
屋上・壁面緑化のためには、市の補助金が必要
補助金があっても維持管理コストがかかるので活用しない
学校のグラウンドを芝生にするという考えもある
校舎の上はソーラーパネルにするということも考えられる
廃校利用の際には緑化を義務づける方策は考えられる
京都は御所が真ん中にあるので、緑が少ないイメージはない
大阪府域でみると緑が少なくないが、都心に少ない
神戸は山があるので、緑が少ないイメージはない
ヒートアイランド 屋上緑化などいたるところで緑化
クールビズ・H11 ~ 夏のエコスタイルをスタートしていた。冷えすぎないで、
体、環境優しい取り組み。定着している。(かりゆし)
ヒートアイランド、大阪夏の平均気温全国トップクラスの暑さ。
コンスタントに暑い。熱帯夜、エアコンがないと暮らせない。対策は？

国際的なビジネスマンにとってもマイナス魅力の要素。
首都圏に比べてマイナスのデータ 悪い条件を逆手に取る工夫、
スタンスの打ち出し（計画論で）
人口減少社会 大阪・地盤沈下の経験済み、
対処、ノウハウがある（強み）と言えないか？
水とみどりのネットワーク
中央環状の森
人と自然の共生
工場跡地の再生 開いているところに水とみどりを広げていく
暮らしやすい環境を持つ関西が創りる

（ 9 ）環境モデル圏域

自然と人間がともに輝ける圏域としての戦略を加えてほしい
特に琵琶湖淀川の流域
豊かな生活に水は欠かせない
淀川流域は水でつながった運命共同体
全体の協力が必要
環境と経済の両立 そのしかけづくりがカギ
経済と環境、生活のしやすさ それを世界に発信
アジアとの関係における近畿の特徴として位置付けられる
自然、緑地、その姿を打ち出したい

（ 10 ）水を活用

海、琵琶湖、河川、地理的条件に恵まれている。東京日本橋は河川を活かした作り直しを進めている。関西ではこの手の取り組みはまだこれから。韓国・ボストン水を活かした都市再生。
水都再生の取り組み。八軒家浜、中之島新線と水の連携、水上パレード。親水空間の再生に取り組んでいる。
神戸 港めぐり、空港、PI（大学）。港空間の親しみを高める取り組みを進めている。
関東 海：湘南のイメージ。マリーナ。富裕層の親しめる場。関西 洒落た空間：西宮、芦屋、須磨、海南にヨットハーバー。
今後余暇時間も増え、必要な環境整備が求められるのでは？
海の駅、マリーナ+観光要素、周遊を促進。中国・四国・九州と連携。
瀬戸内海の資源、近畿圏においてどのように捉えるか？
瀬戸内をめぐるスタンプラリーを実施。ヨット、クルーザーで巡るイベント。数

は増えつつある。

海から見た陸の景色。横浜意識して取り組む。神戸市・海から見た景色をさらに活かさないか。管轄の違いはあるが特に大きな交通規制はない。

八軒家浜でも同様。

マリロード。普通の方もクルーズを楽しめるような環境を整えている。海の駅とも連携。洒落たレストランを楽しめるとか...

海水浴：和歌山南紀・若狭。近畿の方々は日本海側まで結構足を伸ばす。小浜にもヨット係留施設がある。若狭湾一帯かなりの集客力がある。

瀬戸内海：海水浴場としての魅力が低くなっている。(汚くなっていた)近年改善の取り組みが進められている。

ヨットもゴルフも発祥は関西。

それぞれが個性を主張するのが大切

近畿の都市はインフラの整備は進んでいる

リノベーションが必要なプロセスになっている

文化・景観といった視点から今風に変え、世界に示していく

近畿は多様であり、近畿らしさというイメージが難しい

景観形成は地域、自治体の想像力が試される

ど川水系は成功例

水を打ち出すと近畿らしさが出せるかもしれない

2. 文化・景観

(1) 文化の許容性

地域コミュニティの維持、世代をつなぐコミュニティ、テーマごとに結びつくコミュニティ

多文化との共生、多様性のある文化の共生を踏まえた地域づくり

食生活のような豊かさなどいろいろな文化

異文化を受け入れる許容性

豊かなくらし関西 関西モデル

(2) 景観

50年後 100年後の街並み 景観規制をかける

市民のためにとって厳しいかもしれないが、京都らしさをアピール

住んでいて楽しいかどうか

資源として差がつくのは景観がポイント

都市景観 自然景観

滋賀の原風景は琵琶湖の周りに田園

琵琶湖は生活のありようを写している
景観と農業は密接な関係にある
にぎわう農業を目指している
実際に耕作されていないと良好な景観は形成されない
都市的地域、田園地域の景観を条例をしいて行おうとしている
やり方は異なると思う

(3) 景観の個性

どこの駅におりても同じ景観であり、制度として改善
日本の都市はどこにいても同じ顔
自治体のイメージが不足しているのでは
自治体としてやれることも増えている
地域の個性の表現、デザイン、見た目に表れてくる
ユニバーサルデザインに統一
何か徹底するということが大切 中途半端はよくない
いろいろな人が関わって決めていくという進め方が大切
バリアフリーではプロセスも大切という制度となっている

3. 人

(1) こども

少子高齢化 将来の社会の担い手の問題
子どもにとって暮らしやすい像のイメージは？
小・中学校、地域活動が多い(スポーツとか)、両親が地域の中で支える(当番制)、
公共交通機関あまりない。モビリティが広範囲に広がるメリットもある。
近畿都心でも同様の現象。まちを知らない、コミュニケーション不足の問題が指
摘されている。
大都市地域の子ども スポーツが盛ん。近畿の売りの一つ。公園面積少ない、近
隣の施設も不足気味ではないか？
特に問題はない？
校内暴力の発生率？
京阪神の都市地域に住んでいればある程度満たされている。山間部に住んでいる
子どもの利便性が問題になる。全国的に共通の傾向。
ローライフの提供に強み 「場所を変えて生活したい」という時、男性はカント
リー志向、女性は都心ライフ志向。男性と女性で志向のベクトルが逆。
田舎志向、求められるレベルも多様なもの。基本的なライフラインはなければ嫌
だ等。
近畿の中山間地域のポテンシャルは？

高齢になったときに本当に田舎志向が強まるのかは疑問。完全に本拠地を移すというよりは、余暇を田舎で楽しむようなスタイルの方が多いのでは？ 関西：田舎部分と都心部分の距離が非常に近い。両方を気軽に享受できる地理的条件が揃っている。(和歌山・舞鶴・福井) 福井(若狭~武生) 体験農業、普通の農家に泊まれるツアー・主に関西から数千人規模で参加されている。受け入れ農家を支援するNPOも活躍。交流促進中心(結果的に将来的な定住に繋がる可能性も無いことはない)子どもの参加も。交通インフラの整備等も追い風。

食がメニューの中心。田舎風の食事も重要な要素。ロハス。

和歌山県でも実施。ゆくゆくはIターンを狙う。まずは知ってもらうことから。林業体験が中心。森林産業育成、林産材マーケット創出の一環。自立的な取り組みはなかなか難しい。みどりの雇用、若い方に来て頂きたいが...。終の棲家、どこに住んだらいいのか？子ども一緒に住みたくはないが、近くがいい。子どもの働ける環境が必要。医療、豊かなライフスタイルを実現できること、様々な条件がある。近畿は多くの条件を満たしている。

(2) 女性の就業の問題

閑空が24時間化すると問題になるのは女性の就業問題

24時間化で、女性の生活のソフト問題(保育等)が課題になる
時短やワークシェアリングにすると、独身女性にしわ寄せがくる

女性が働きやすい環境の最大は育児の問題

子育て支援センターが各地にある

女性が働きやすい地域としての近畿の利点は

通勤時間が短いのは近畿の利点

女性に優しい近畿というフレーズは、有効

歴史的に「近畿は女性が強い」というのを打ち出せないか

近畿の乳ガン検査比率は低い

(3) 若者の流出阻止

大学を出た後、いかに若者の流出を食い止めるか

若者の定住のためには、産業以外に、暮らしの観点からどうか

若者の暮らしの観点でも、医療、出産、育児などが重要

産婦人科と小児科の合体版の古くからの拠点

結婚した後は、女性が居住地を決める

女性が住みたくなる地域とは

一つは治安。女性は治安を重要視する

あと、女性は教育も重要視する

教育について、近畿は、東京や名古屋に比べ遅れていない

4. その他

(1) 首都機能のバックアップ

民間企業を含めたバックアップ機能である必要がる

首都機能にあまりとらわれないほうがよい

首都機能という表現がよくない

代替機能という意味でのバックアップ拠点

阪神淡路大震災では大阪、東京があるからバックアップできた

バックアップ時に民間が稼ぐくらいの機能であるといい

(2) 新たな「公」

近年多くの分野でNPOが活躍。従来の公的サービスの民活の動きも発展。

関西の市民力の素地があるとか、ビジネス力の高さとか。

近畿の大商人、橋・堀等、自らまちづくりを主導してきた。関経連・昔から
広域への提言は重ねてきている。自立心は強いと言える。

関西 もともと「新たな公」の気質はある。当たり前前の感じではないか。

仕事時間以外の社会貢献の動きはどういった状況か？

阪神大震災、コープ神戸等、先進的な取り組み、民力は強い。

(3) 福祉・医療・健康

福井 人口の規模の割に大病院が立地。医療体制として充実。経営面でも拠点
病院を中心にしたサポート体制は整っている。

福井 日本で一番長寿の国。

離島はヘリコプターで運送。関空に基地。

ヘルスケア、健康でくらししていくための都市の役割がある

このような取り組みが産業につながる

田舎があって都市があるという視点

(4) ベイエリアの環境

環境に配慮した企業の立地が考えられる

東京湾と大阪湾を比べると、東京湾は干潟が多い

大阪湾で、干潟の回復の取り組みは行っている

大阪は水害に強い街である（堤防など）

水害に強いいため、干潟が少ない

海があっても人が近づけないと意味がない
堺より南の海で干潟の回復にがんばってもらう

(5) ごみ・リサイクル

リサイクル率は、近畿は高い方である
近畿にはごみを集める業者も多い
但し、ごみの分別については、いい加減である
特に大阪市は分別しない(プラスチックと金属以外は同じ)
関東に比べ、近畿は分別収集が遅れている
分別収集はコストがかかるので有料化とセットにする必要あり
社会的コストで言えば、全てのゴミを高温で溶かすという方法が良い
この方法を行っているのが大阪市(熱利用が必要)
名古屋は処分地がないが、大阪は埋立処分地の余裕がある
分別の方が環境に優しいイメージがあるので、逆行している
産業廃棄物のリサイクル率は高い
分別のためには、専用のステーションも必要になる

(6) 防災

施設、研究機能等の基盤としてのとり組を行う必要がある

(7) イメージ

大和川の水 空気など関西は治安・環境の悪さがイメージ
これ以上は悪くならないという安心感の上に観光等がある

(8) まとめ方

資料三の整理が産業に寄っている感がある
もう少し、交流、暮らしをいれるべき
暮らしやすさを打ち出す必要がある
東京にないものを打ち出す必要がある